

# 日本人の 『月』移住計画が また始まった!?

……いずれにしても月をテーマに

第2回研究会: 『スペースダンス ～或る日、宇宙で』の実演を通して

- 身体表現(舞踏)の視点から考えた無重力空間での人間の姿勢変化、及び生活様式のあり方の考察 -

日時 平成16年4月24日(土)

会場 JAXA 筑波宇宙センター 総合開発推進棟 2F 中会議室A

プログラム

12:30-14:00

ワークショップ(チューブ空間におけるダンス実演及び来場者体験)

「チューブ空間で遊ぶ～未知の生物のように」

14:00-15:10

研究発表会

はじめに

基調講演1「ふたたび、月面へ」/ 松本信二(CSPジャパン社長)

基調講演2「月面スポーツの可能性」/ 岩田勉(JAXA筑波宇宙センター長)

研究発表1「月面スペースダンスの可能性」/ 福原哲郎(東京スペースダンス)

研究発表2「月面での多関節ロボットの有効利用」岡本修(JAXA宇宙先進技術研究グループ)

15:10-16:00

パネルディスカッション 「月面で予想される身体の未来」/ 講演者全員

『スペースダンス ～或る日、宇宙で』

このテーマは「姿勢」というキーワードをもとに東京スペースダンスとJAXAで進めているFSです。

第2回研究会は『月』をテーマに「姿勢」について勉強します。

スペースダンス

「姿勢の創造」にかかわる光景を、意識的に取り出し、アートとして構造化して見せること。個人の身体技術を使用し、個人の「新しい姿勢」を創造する。つまり、これは「身体の再開発」のためのプログラムであり、このダンスが、宇宙空間での人間の新しい生活環境を考えるきっかけとなるのである。

姿勢

生物の進化の歴史を振り返ると、生物が生存するために必要な「姿勢」がある。人間で言うと二足歩行に基づく「姿勢」がある。さらに人間は個人特有の「姿勢」があり、無意識のうちに身体技術を使用することで、個別の姿勢による个性的世界を作り出している。

チューブ空間 = スペースダンスの舞台装置

長さ10m、直径2mのチューブ空間は無重力環境と見立てることができる。これを体験する者はアンバランスとバランスの間を歩き来し、空間との一体感を得ることができる。その感覚によって、宇宙遊泳や胎児のように様々な「姿勢」で遊ぶことができる。

FS: フィージドリテスタディ

参加申し込み / お問い合わせ

宇宙航空研究開発機構 きぼう利用相談室 金子陽一

E-mail: kaneko.yohichi@jaxa.jp

電話: 029 - 868 - 3617

